

2018年大阪府北部の地震がもたらした防災意識の変化

The Effect of the 2018 Osaka Earthquake on Public Awareness of Disaster Prevention

山村紀香^{(1)*}・三宅雄紀^{(1)**}・坂上 啓⁽¹⁾・片尾 浩

Norika YAMAMURA^{(1)*}, Yuki MIYAKE^{(1)**}, Hiromu SAKAUE⁽¹⁾ and Hiroshi KATAO

(1) 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻

(1) Division of Earth and Planetary Sciences, Graduate School of Science,
Kyoto University, Japan

Synopsis

The Osaka earthquake occurred on June 18, 2018. We performed a questionnaire survey on the effect of this earthquake on public awareness of disaster prevention. As a result, we found that the experience of major earthquake greatly affects the preparation up to now and from now on.

キーワード: 大阪府北部の地震, 防災意識, 大きな地震の経験, 阿武山観測所

Keywords: Osaka earthquake, Public awareness of disaster prevention,
Experience of major earthquake, Abuyama seismic observatory

1. はじめに

2018年6月18日7時58分, 大阪府北部を震源とする気象庁マグニチュード6.1, 震源の深さ13kmの地震が発生し, 大阪市北区, 高槻市, 枚方市, 茨木市, 箕面市で最大震度6弱を観測した(内閣府, 2018)。

この地震を経験して市民の防災意識がどのように変化したか, あるいはこれまでの大きな地震の経験が日頃の備えに直結するのかなどについて質問紙によるアンケート調査を実施した(付録)。アンケートを配布したイベントは, 次の4つである。

- ① 京大ウィークス2018 京都大学宇治キャンパス公開「宇治で知る・学ぶ・感じる科学 魅力のサイエンスワールドへようこそ! : 近畿の地震と活断層を探る」(京都府宇治市, 2018年10月27日)

- ② 京大ウィークス2018 阿武山観測所スペシャルプログラム「サイエンスミュージアムDAY」(大阪府高槻市, 2018年11月3日・4日)
- ③ 第60回 京都大学11月祭 研究室企画 古地震研究会「NFでみんなで翻刻してみた」(京都市左京区, 2018年11月24日・25日)
- ④ 阿武山観測所 各種イベント(大阪府高槻市, 11・12月分)

2. アンケート概要

アンケート回答者の性別および年齢をTable 1に示す。回答者の主な居住地は, 高槻市, 茨木市, 神戸市, 京都市, 大阪市, 吹田市, 宇治市, 箕面市, 豊中市, 西宮市, 枚方市など, 比較的強い揺れを観測した地域である。

* 現所属 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター資料室

** 現所属 株式会社ビービット

Table 1 Answerers of the questionnaire survey

	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	12	16	7	23	31	134	223
女性	21	9	4	34	18	112	198
合計	33	25	11	57	49	246	421

3. 大阪府北部の地震以前の防災意識

まず、大阪府北部の地震を経験する前の市民の防災意識について調査を行った。アンケートの設問4で大阪府北部の地震以前に大きな地震を経験したことがあるかどうかを尋ねたうえで、設問9で大阪府北部の地震以前にどのような防災対策を行っていたかに関して無制限複数選択形式で尋ねた。設問9の選択肢は「自宅周辺などのハザードマップを確認していた／自宅周辺などで発生する可能性のある地震や活断層などを事前に把握していた／自宅の家具などの転倒防止対策をしていた／被災時のために飲食料品の備蓄をしていた／懐中電灯や充電式ラジオなどの防災用品を準備していた／その他」である。

その結果をまとめたものをFig. 1 に示す。防災用品の準備や飲食料品の備蓄、家具の転倒防止対策（「モノ」の防災と称す）は、大きな地震の経験の有無にかかわらず、実施されている割合が高いことがわかった。その中でも、防災用品の準備や飲食料品の備蓄に関しては、地震災害のみならず、他の災害にも応用できるため、実施されている割合が高かった。一方で、家具の転倒防止対策に関しては、設置するのに労力が必要な場合が多いため、「モノ」の防災の中では実施されている割合が低く、大きな地震の経験の有無によって実施の割合に少し差がみられた。

また、ハザードマップの確認や地震・活断層などの事前把握（「情報」の防災と称す）は、実施されている割合が低いことがわかった。ハザードマップの配布方法は、自治体によって異なっており、郵便ポストに投函される場合もあれば、ホームページに自らアクセスをして情報を取りにいかなければならない場合も存在する。それに加えて、ハザードマップに記された情報を理解するために、ある程度の知識が必要になる場合もある。そのため、これらが「情報」の防災を実施する際の障壁となっている恐れがある。

全体を通して、「モノ」の防災に比べて、「情報」の防災の実施の割合が低いという傾向は変わらなかった。しかし、大きな地震の経験がない人ほど、「情報」の防災を実施しない割合が高いことがわかった。

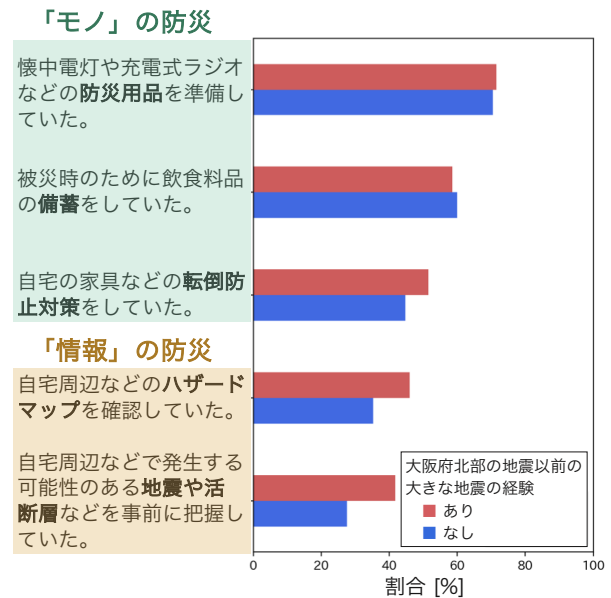


Fig. 1 Public awareness of disaster prevention before the 2018 Osaka earthquake occurs

これは、これまでに被災経験がないことから、災害に対する現実味が薄く、被災時のイメージが描きにくいということが考えられる。

4. 大阪府北部の地震以降の防災意識

次に、設問10で大阪府北部の地震以降に防災に関する意識が変わったかどうかについて尋ね、設問11でどのように変わったのか、あるいはなぜ変わらなかったのかについて自由記述形式で尋ねた。

その結果をアンケート回答者の居住人数が多い地域順にまとめたものをFig. 2 に示す。高槻市や茨木市などの揺れや被害が大きかった地域では、今回の地震をきっかけとして防災意識が変化した割合が76%を超える高い値となった。一方で、神戸市では、揺れや被害が小さかったこともあるが、防災意識の変化した割合が39%と他の地域より低い値となった。

高槻市および茨木市、神戸市に住む回答者の設問11の回答の一部をTable 2 に示す。高槻市・茨木市に住む防災意識が変わったと回答した方々は、今回の震源が高槻市と近かったため、「地震が本当にどこ

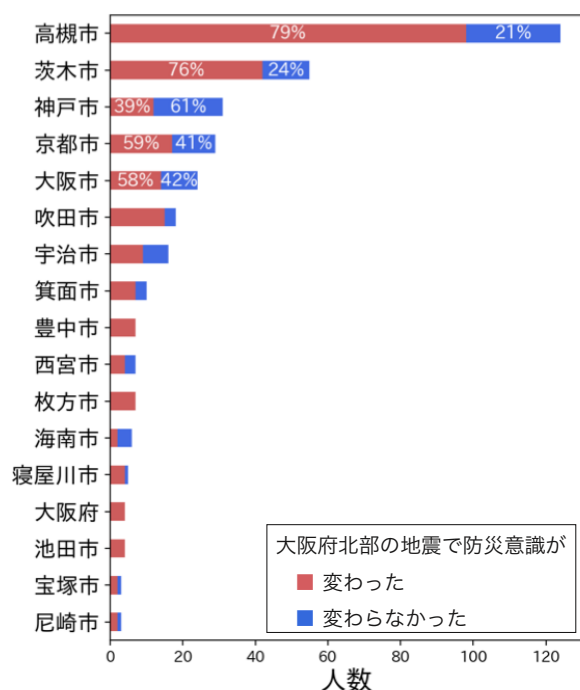


Fig. 2 Changes of public awareness of disaster prevention by region after the 2018 Osaka earthquake occurs

でも起こりうることを実感し、日頃から備える必要があると気付いた」といった回答が多く目立った。一方で、高槻市・茨木市に住む防災意識が変わらなかったと回答した方々は、「事前に備えてあったもので大丈夫であった」というようなことから防災意識が高く、南海トラフ地震を見据えたような回答もあれば、「自然に逆らうことはできない」というような諦めの気持ちを綴った回答もいくつかみられた。

神戸市に住む防災意識が変わったと回答した方々は、「被害はそんなになかったものの、関西で大きな地震がいつ起こるか、どこで起こるかは分からないということが分かったので、備える必要性を再認識した」というような回答がいくつか見られた。神戸市に住む防災意識が変わらなかったと回答した方々は、「阪神・淡路大震災の被災経験をもとに、対策や心構えができていた」という回答や、「今回の地震の規模が阪神・淡路大震災より小さかったため」という回答もみられた。

これらより、高槻市・茨木市に住む方々は、今回の地震をより身近に感じ、防災対策をする必要性に気付かされたが、神戸市に住む方々は、阪神・淡路大震災を経験している世代が回答者の中で多かった

Table 2 Reasons of changes of public awareness of disaster prevention after the 2018 Osaka earthquake occurs

	防災意識が変わった	防災意識が変わらなかった
高槻市 ・ 茨木市	<ul style="list-style-type: none"> 家具の転倒防止を施した。 風呂の水を溜めるようになった。 スマホ充電器（非常用）を購入した。 防災用品を準備する必要があると思った。 ブロック塀の危険を認識した。 復旧に時間がかかることに気付いた。 震源が高槻だったため。 地震はどこでも起こりうると思った。 1.17の時より大きな震度を経験することがあるとは思わなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 諦めの気持ちが強くなった。 人間の力ではどうすることもできない。 築45年の2階建でも被害がなかったから。 1.17の経験が生きたから。 事前に準備してあったもので、十分だったから。 以前から南海トラフなどへの意識があったから。 南海トラフではあの程度では済まないということが分かっているから。
神戸市	<ul style="list-style-type: none"> ブロック塀など気をつけるようになった。 いつ、どこで発生するのか、慌てないように心掛けておかなければならない。 あまり影響のなかった神戸市でも、店頭から水やガスボンベがなくなっていたので、災害に対する意識が低いことがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 既に1.17で経験し、心構えができていた。 防災意識は大阪北部地震以前から高かったから。 南海トラフに備えているので、大阪北部地震で考えが変わることはない。 1.17や3.11と比べ切迫感が乏しかったから。

Table 3 Changes of public awareness of disaster prevention by experience of major earthquake

	防災意識が変わった	防災意識が変わらなかった
大きな地震経験あり	66% (192人)	34% (99人)
大きな地震経験なし	80% (81人)	20% (20人)

ため、もともと防災意識を持って対策をしており、防災意識が変わらなかった割合が高くなったことが分かった。

大きな地震の経験の有無ごとの防災意識の変化の割合をTable 3 に示す。大きな地震の経験がある方々の中で防災意識が変わった方は66%(192人)、大きな地震の経験がない方々の中で防災意識が変わった方は80%(81人)となり、これまでに大きな地震を経験したことがない場合の方が今回の地震によって防災意識が変わった割合が高くなる結果となった。

5. おわりに

本稿では、大阪府北部の地震に関して、市民にアンケート調査を行った結果を述べた。その結果、ハザードマップの確認などの「情報」の防災は、食料品の備蓄などの「モノ」の防災に比べて、実施される割合が低いことが分かった。また、今回の地震によって、高槻市・茨木市は防災意識の変化が大きく見られたが、神戸市ではあまり見られなかった。これらより、大きな地震の経験の有無が、日頃の災害に対する備えに影響することが分かった。

ただ、本調査の対象者の特徴として、60歳以上の方の人数が非常に多いことと、地震や防災に関するイベントに参加した方が回答しているため、もともと地震に興味や関心のある方が多い可能性があるということが挙げられる。そのため、より正確なデータを得るためには、対象者に偏りがないよう配慮する必要がある。

謝 辞

本研究は、アンケートにご回答していただいた皆さま、および配布のご協力を賜りました阿武山観測所、京都大学古地震研究会のご協力があった成し得たものです。深謝いたします。

参考文献

内閣府(2018)：大阪府北部を震源とする地震に係る被害状況等について(平成30年7月5日18:00現在)。

(論文受理日：2019年6月15日)